



まちづくりガイド

町が取り組む施策や事業についてわかりやすくご紹介します

⑫ 小中学校などの施設耐震診断の結果と改修計画

学校は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習や生活の場であるとともに、災害発生時には避難場所になるなど重要な役割を担っています。町では建築基準法の改正前（昭和56年）以前の基準で建築された校舎などについて、平成12年度に耐震診断（二次診断）を実施し、改修が必要と診断された施設について順次耐震補強などの工事を実施してきました。また、平成19年度には「学校施設の耐震化推進計画」を策定し、平成25年度までにすべての学校施設の耐震補強が完了するよう計画しました。しかし、今年春の中国四川大地震や岩手・宮城内陸地震が相次ぎ発生し、国が学校耐震化の加速施策を講じたことに準じて、笠松小学校校舎などと下羽栗小学校体育館の耐震補強を前倒し実施する計画変更をしました。総事業費は約8億500万円です。

今回、平成20年6月に施行された「地震防災対策特別措置法の一部を改正する法律」による診断結果を公表するとともに、今後の耐震補強計画も併せてお知らせします。

学校名	名称	構造	面積 (㎡)	構造耐震判定結果 (Is値)	計画年度
笠松小学校	北舎	RC造り3階建	2,142	1.04	耐震補強の必要なし
	中舎	RC造り4階建	1,953	0.86	
	南舎	RC造り3階建	1,872	1.04	
	西舎	RC造り3階建	1,216	0.39	平成22年度
	渡り廊下 (4箇所)	RC/S造り3階建	720	0.27	
	講堂	RC造り2階建	1,201	0.87	耐震補強の必要なし
松枝小学校	西舎	RC造り3階建	2,562	0.20	平成21年度
	東舎	RC造り4階建	3,321	0.30	平成22年度
	体育館	RC造り2階建	1,111	新耐震基準 施行後建築	
下羽栗小学校	西舎	RC造り4階建	2,841	0.40	平成22年度
	東舎	RC造り4階建	1,169	0.58	
	体育館	RC造り2階建	831	0.20	
笠松中学校	南舎	RC造り4階建	2,345	0.48 (補強前) →0.81 (補強後)	平成15年度 耐震補強済
	東舎	RC造り4階建	776	0.27 (補強前) →0.83 (補強後)	平成14年度 耐震補強済
	北舎	RC造り4階建	2,455	0.26 (補強前) →0.86 (補強後)	平成17年度 耐震補強済
	屋体	RC/S造り2階建	1,138	0.417	平成25年度 建替えを含め検討

RC造:鉄筋コンクリート造り RC/S造:鉄筋コンクリート一部鉄骨その他造り

※Is値について

耐震診断の結果は『Is値』で表されます。文部科学省では学校施設の耐震性能として、Is値 ≥ 0.7 の安全性を求められています。したがってIs値0.7未満の建物については耐震補強工事が必要となります。おおよそのIs値の安全基準は以下のとおりとなります。

- ① Is < 0.3 大規模な地震の震動および衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。
- ② $0.3 \leq Is < 0.7$ 大規模な地震の震動および衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。
- ③ Is ≥ 0.7 大規模な地震の震動および衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。

《公共施設の耐震について》

建築基準法の改正前（昭和56年）以前の基準で建築された役場庁舎などの公共施設についても、平成21年度中までに耐震診断をすべて完了し、その結果により、順次耐震補強を実施していく計画をしています。